

27PB-am124

ウラルカンゾウの人工水耕-圃場ハイブリッド栽培システムの構築

○吉松 嘉代¹, 乾 貴幸¹, 河野 徳昭¹, 北澤 尚¹, 林 茂樹¹, 菱田 敦之¹, 杉村 康司¹, 中村 理恵², 吉岡 拓磨², 山路 弘樹², 武田 修己², 川原 信夫¹ (¹基盤研・薬植セ, ²ツムラ)

【目的】ウラルカンゾウの地下部の乾燥物である甘草は、漢方処方 の 7 割以上に配合される最も重要な生薬である。しかし、その供給のほとんどは、中国北部の野生植物の採取に依存している。これまでに我々は、1 年間の水耕栽培で日本薬局方 (日局) のグリチルリチン酸 (GL) の規格値を満たす根が得られるウラルカンゾウ優良株の育成と、人工水耕栽培により得られた地上茎を挿し穂とする挿し木法による苗の大量増殖に成功した¹⁾。今回、本法により増殖させた苗を開放系で栽培し、得られた根の生薬としての評価を行ったので報告する。

【方法】人工水耕栽培したウラルカンゾウ地上茎より育成した苗を材料に、種々開放系栽培環境下で栽培し、得られた根の生薬としての適合性を評価した。

【結果・考察】2012-2013 年の栽培試験 (北海道野外圃場、つくば野外圃場筒、つくば近郊野外圃場、種子島ハウス筒) では、北海道野外圃場で 434 日間栽培した優良株 GuIV1 において、日局の GL 規格値を満たす根 (径 0.5 cm 以上の根の GL 含量: 3.54-3.71%) が得られ、さらにこれらの乾燥根は、他の全ての日局規格に適合した。また、同植物体においては、径 0.5 cm 未満の根においても、高い GL 含量 (3.30-3.88 %) を示し、同様に他の日局規格に適合した。現在、2013-2014 年の栽培試験結果について解析している。

本研究は、厚生労働科学研究費補助金「人工水耕栽培システムにより生産した甘草等漢方薬原料生薬の実用化に向けた実証的研究 (H24-創薬総合-一般-007)」の一環として実施した。